

新聞を活用し、現代社会を生きる力を育てる Ⅱ

— 実践校2年目の新聞活用の取り組み —

松本美須々ヶ丘高等学校 仁科 利明

1 研究テーマ

今日の学校教育には、基礎・基本的な知識の習得、思考力と活用能力の育成が求められている。また、現代社会では多種多様な情報を読み解き活用する力（リテラシー）の育成も必要である。新聞は私たちにとって最も身近な情報源であると同時に、学校における学習を深め、教科・科目間の学習内容を関連づけ、学習内容と生徒、社会を相互に結びつける優れた教材にもなりうる。以上のことから、実践2年目も引き続いて上記の研究テーマを設定した。

2 実践の概要

(1) 授業での取り組み

実践1年目に引き続き、私が担当する地理Bの授業で取り組んだ。地理Bの学習領域は、自然環境、資源、産業、国家、人口・食料問題、都市問題、環境・エネルギー問題、民族・領土問題など多様で、現代世界の状況と社会が抱える諸課題を直接的に扱うこと場面が多い。授業では、導入時の資料として、また教科書などを補完する教材として新聞記事を活用した。

①対象講座の授業は、いずれも私一人で担当した。

- ・選択地理B（3学年・3単位・2講座・生徒37名・1学年で4単位履修した重習者）
- ・必修選択地理B（2学年・3単位・3講座・生徒75名）

②具体的な取り組みは、以下の通り。

- ・授業導入時にその日の新聞記事を用い、現代社会の諸課題と自分たちの生活とを関連づけながら、生徒の興味や関心を高めることを心がけて解説した（資料1、2）。
- ・授業の学習内容に関連する新聞記事は、系統的に教材化を図った。
- ・定期考査では直近の新聞記事を素材にした時事問題を10～20点の配点で出題し、評価の対象とした（資料3）。
- ・2学年の講座では、夏期休業を利用して地球温暖化問題に関する課題レポートを全員に実施し、A～Dの4段階で評価した（資料4）。
- ・2月20日にNIE実践指定校授業公開を行った（資料5）。

(2) HRでの取り組み

2学年では、2学期後半から「カムトゥルーの時間」に取り組んだ。新聞記事やコラムなどを読む時間を設け、文章の書き方や表現を学ぶとともに時事問題への関心を高めさせた。さらに要約や意見などを文章に書いたり、学級内で発表することで自己表現力の向上を図った。また、受験での小論文や面接などを念頭に進路学習の一環として位置づけた。

①対象生徒は1～7組の284名で、各学級担任が担当。

②具体的な取り組みは以下の通り。

- ・各学級担任が持ち回りで新聞記事などを素材にプリントを作成。

- ・毎週水曜日のSHRで生徒に配布。
- ・内容などに応じて、黙読、音読、要約、感想文、意見発表などを実施（資料6）

(3) 新聞作りの取り組み

新聞作りは、NIEの柱の一つとして位置づけられている。本校では授業での新聞作りの実践は困難であるが、私が顧問を務める新聞委員会の活動として新聞制作に取り組んだ。『松本美須ヶ丘新聞』は、旧制松本市立中学校時代の『市中タイムス』からの歴史を持つ。一昨年度、私は県高文連新聞部会の立ち上げと同時に本校に異動し、新聞委員会の顧問となった。しかし新聞は休刊状態だったため、委員会の1年生有志生徒を募ってPC編集と校内印刷でA4版2～4面の新聞を復刊した。取材活動を基本として生徒自らが目と耳と足を使って情報を収集し、原稿を書き、記事として発信することを新聞制作の方針とした（資料7）。

3 実践の成果

(1) 地理Bの授業の取り組み

生徒は、授業で配布した新聞記事プリントや回覧した新聞コピーをよく読んでいた。また、昼休みや放課後など新聞閲覧コーナーで新聞を読む生徒の姿も多く見られた。とくに3学年の生徒は受験時の小論文や面接対策もあり、地理Bの学習分野に限らず世界のさまざまな事象に興味、関心を深める生徒も少なくなかった。2学年の講座で3学期最後に行った授業アンケートでは、「この1年間で、新聞を読む時間は変化しましたか」の問いに、28.4%の生徒が「長くなった」と回答した（ほとんど変わらない、が70.1%）。「新聞を読んだり授業で扱われたなかで、関心を持ったり、疑問に思ったり、考えさせられた新聞記事は何ですか」の問いでは、地球温暖化問題、バイオ燃料などエネルギー問題、食糧問題、アメリカ大統領選挙とオバマ新大統領誕生、などの回答が多かった。また、地域の記事や一面で関心を持った記事をしっかりと読むようになった、と答えた生徒もいた。

生徒が日常生活のなかで新聞を読む時間は決して十分ではないが、授業の新聞記事プリントや解説で世界の動きや諸課題を知り、身近な問題として考えることができたようだ。新聞の活用によって授業などの学習内容と時事的な問題が結びついたとき、個々の知識が体系的に複合化され、現代世界の現状を知り、諸課題とその解決への理解が深まってきたといえる。

(2) 2学年のHRでの取り組み

スポーツ面やTV欄以外の新聞記事を日常的に読む生徒は多くはないが、「カムトゥルーの時間」の取り組みは、短時間ではあるが週1回SHRの時間に新聞のコラムや記事などを読むいい機会になった。使用する教材（プリント）は、各学級担任が持ち回りで生徒の状況やキャリア学習などを考えながら素材を選んで作成した。今年度は初めての取り組みということもあり、体系的な指導という観点からは十分とはいえない面もあったが、読んだり書いたり発表するなかで生徒が表現することに慣れるとともに、その内容も徐々に向上してきた。また、卒業後の進路志望や将来設計を考えるきっかけにもなった。

(3) 新聞委員会の新聞作りの取り組み

身近な問題を通して校内から地域や世界を考え、自ら発信する新聞制作を新聞活動の重要な目標と考えている。今年度、『松本美須ヶ丘新聞』は復刊17～29号まで発行した（他に号外あり）。昨年度から継続の特集「美須ヶのゴミ問題」では、校内のゴミの分別状況や改善すべき点、生徒会や運動部が行っているリサイクル活動を取り上げ、紙資源回収を協同して

いる地域の障害者就労支援作業所を取材した記事も掲載し、これらは『信濃毎日新聞』への記事掲載にもつながった。新任の先生方や人権講演会講師の先生など、基本的に対面取材を積極的に行った。入学式や文化祭、卒業式などでは速報新聞を即日発行した。来年度の学校創立100周年を記念する連載特集も開始し、同窓生や地域の方々にむけても発信している。また、技術講習会や高校総合文化祭など高文連の活動にも積極的に参加し、新聞作りについて学び交流を深めたが、これらの経験は日常の新聞制作に大いに役立った。

11月に生徒会が発足したが、新聞委員会の活動方針は新しい役員に引き継がれた。今年度最終の第29号では、「定額給付金と高校生」について取り上げた。現在、本校のホームページへの掲載も準備中である。

4 今後の課題

授業の取り組みでは、年間指導計画に対応した新聞記事の教材化が必要である。時事的な新聞記事は話題としての新鮮味に富んでいるが、体系的な学習教材になりにくい側面がある。最新の情報を更新しながら、体系的に活用可能な新聞記事の蓄積をさらに進めたい。

今年度は2学年で「カムトゥルーの時間」が行われるなど、校内での取り組みは少しずつ広がりをみせた。今後も、他教科の授業やキャリア学習、生き方の指導などで活用できる新聞記事を提供して情報を共有し、NIE実践の可能性を模索していきたい。

また、新聞委員会の校内での活動基盤を安定させ、生徒の新聞活動の視野を地域やより広い世界へ広げていきたい。高文連の活動や新聞社の紙面制作などにも積極的に参加して新聞作りの技量を高め、校内メディアとして高校生の視点からの活動を進展させたい。

[資料1] 2008年度に授業で取り上げた新聞記事の分野別回数

分野	回数	具体例
自然環境	10	ミャンマーサイクロン、四川大地震、岩手地震、防災の日、阪神大震災
農牧業と食糧	11	食糧自給率、汚染米、途上国にヤギ、クローン牛、モンゴル砂漠化
資源と産業	24	ガス田開発、北極海原油、原油価格、低価格PC、自動車産業
生活	3	新型インフルエンザ対策、認知症
交通・通信	5	アルピコ、地デジ受信料、車保有台数、リニア新幹線
エネルギー・環境	25	バイオ燃料、CO ₂ 排出量、地球温暖化、太陽光発電、森林保全
民族・宗教	14	イラク、伊藤さん殺害、グルジア、アフガン、インド同時テロ、ガザ攻撃
平和	9	クラスター弾禁止条約、高レベル廃棄物、イマジン、宇宙基本法
文化・教育	15	学力テスト、日本人ノーベル賞、「変」、センター試験、「おくりびと」
経済	18	G7、NY株安、中国成長減速、東証7000円割、上場企業赤字
世界	15	スーチーさん軟禁、ベール、国籍法、サミット、米大統領選、ハマ氏
日本	11	内閣支持率、首相閣僚辞任、麻生内閣、衆院選、定額給付金
地域	4	善光寺落書き、遠兵閉店、美須々の桜
合計	164	

[資料4] 2学年地理B夏期休業課題レポート・「地球温暖化問題」を考える

(A4版4頁のうち、1頁と4頁)

社会科NIEレポート (年 組 番 課 長 氏 名)
 「地球温暖化問題」を考える

産業革命以降、とりわけ20世紀に入って人間社会は科学技術の発達や経済活動の拡大にめざましい成長をあげてきた。その一方で、酸性雨や地球温暖化、オゾン層破壊、森林減少、砂漠化、有害廃棄物問題、海洋汚染、生態系破壊、核廃棄物処理事故による放射性汚染など、世界各地でさまざまな環境問題が生じている。国境を越えて拡大する環境問題に対しては、国連環境計画（UNEP）など国際機関を中心に、数多くNGOやNPOの体が特定の立場から自国解決のために積極的に取り組んでいる。しかし、環境問題だけだけでなく、民族紛争や宗教対立、南北問題など、人間社会をとりまく状況は日々その激しさを増している。

21世紀、私たちが人間は、人権や民族、国家、政治的・経済的な利害を超え、「かけがえのない地球」を構成する一員として地球環境との共生をめざさなくてはならない。なかでも今年のサミットで取り上げられた地球温暖化問題は、早急に解決しなければならぬ最重要課題である。そのためには地球温暖化問題の要因を理解したうえで、生活者としての立場から問題の解決（あるいは問題の軽減）のために何ができるのか、日常生活の中で取り組むことが可能な事項を考え実行することが必要である。そこで、今回は次の手順でレポートを作成し、期間までに提出してください。

- ① 新聞に掲載された地球温暖化問題に関する記事を読み、見出しと記事の大きな内容を記録する。
- ② 新聞記事を手帳に記し、関心をもった内容からレポートのテーマを設定する。
 (例: 異常気象、生物の異常、温度上昇の影響、エネルギー削減、二酸化炭素排出量 など)
- ③ 設定したテーマについて資料を収集し、現在の状況を整理にまとめる。
- ④ 収集した資料に基づき、問題点を指摘したうえで自分の考えをレポートする。
- ⑤ 日常生活の中で実践できる取り組みを考え、具体的に記入する。
- ⑥ 参考資料一覧を作成する。図書は書名・著者名・出版社、新聞の記事は新聞名と発行日、ニュースは局名と放送日、インターネット情報は入手先を記入する。
- ⑦ 新聞の切り抜きやインターネット情報は、レポートに添付して提出する。



⑧ レポートの提出締切は とする。

①新聞記事の記録	
新聞名 月 日 () 面の記事	見出し 内容
新聞名 () 月 日 事 面の記	見出し 概要
新聞名 () 月 日 事 面の記	見出し 概要
新聞名 () 月 日 事 面の記	見出し 概要

②テーマ	
③現在の状況	